

郡山地方広域消防組合「田村消防署三春分署新築移転基本・実施設計業務」
プロポーザル審査委員会 審査講評

1. 審査経過

本プロポーザルは、郡山地方広域消防組合と福島県建築設計協同組合が締結した「田村消防署三春分署新築移転基本・実施設計業務」の設計担当者を選定するためのものであり、各分野から 5 名の審査委員による審査委員会が設置され、慎重かつ厳正な審査を行った。

本施設整備にあたり、郡山地方広域消防組合では「田村消防署三春分署新庁舎建設基本構想・基本計画」（令和 6 年度）を策定し、老朽化、狭隘化が進んでいた施設を自然災害や新型コロナ感染症など大規模化・多様化する災害等への確に対応するため移転新築が計画されたものである。

また、本事業は福島県建築設計協同組合の組合員及び関東・東北地区で一定の実績を有する一級建築士事務所を対象にプロポーザル方式の設計提案を行うものであり、新施設は約 2,000 m²の敷地面積に RC 造、S 造又は木造の 2 階建て、床面積 600 m²程度の消防庁舎を整備することとしている。

プロポーザル審査会は、10/3（金）に三春町役場大会議室で第一次審査会を開催した。審査に先立ち 11 時からの審査委員会では第一次審査の進め方について審議した。

はじめに、参加表明時の 22 者から 8 者の辞退があり、最終的に応募のあった 14 者の技術提案書について失格要件の有無を確認した。一部にプロポーザルの表現の範囲に判断しがたい提案書があったが委員会で審議のうえ審査対象とした。次に、公開審査とすること、全応募者の提案評価を行うこと、評価は総合評価で行うこと、第二次審査対象者（ヒアリング要請者）を選定することなどを確認した。

引き続き、13 時 10 分から第一次審査を行った。審査員にはそれぞれの専門的立場から 14 者の提案書について意見をいただいた。敷地に対する施設配置、周辺住居との関連性や駐車場、訓練スペース等の考え方について意見が交わされた。その後のヒアリング要請者の選定作業では提案書それぞれにヒアリングで聞いてみたいところはあったが、14 者すべてをヒアリング対象者とするには時間的にも厳しいため、投票により絞り込むこととなった。その結果、まず 1 回目に審査委員 5 人が 5 票を投票し 4 票以上の得票を得た 2 者（受付番号 ⑩ と ⑬）を選定し、その後、3 票と 2 票の得票のあった提案者（受付番号 ②・③・④・⑦・⑧）に対して、再び提案内容の意見交換を行った上で、2 回目に審査委員 5 人が 2 票を投票し、2 票以上の得票のあった 3 者（受付番号 ②・④・⑦）を加え 5 者をヒアリング要請者として選定した。ヒアリング要請者数が多いためヒアリング開始は 12 時 30 分とした。

第二次審査は、10/15（水）に三春町役場の議場で開催した。審査に先立ち 11 時から二次審査の進め方等について審議した。ヒアリングは 1 者 25 分（説明 10 分、質疑 15 分）で進めること、5 者ヒアリング終了後、休憩の後、選定作業はヒアリングの内容を基に投票により行うこと、最優秀者及び優秀者を選定すること、前回同様第二次審査も公開で行うことを

確認した。

引き続き 12 時 30 分より第二次審査を行った。プロジェクターを使っての提案者説明の後、第一次審査で意見交換が行われた点を中心にそれぞれの審査員の立場からの質疑応答を行った。

休憩を挟んで投票による選定を行った。投票に先立ち、審査委員長から 5 者の提案について一作品ずつヒアリング内容も含めたレビューを行い審査委員間で確認した上で、投票方法とその結果の評価方法について説明を行い各審査委員はそれぞれ 2 票を投票した。結果、5 者とも得票し票が分散し優劣がつけがたかった。そこで、もう一度、各審査委員が 5 者の提案への評価や意見を個々に発表し意見交換した上で、今度は、各審査委員がそれぞれ 1 票で再度投票を行ったが 4 者が得票し明確な優劣が付かなかった。このため、審査委員間で話し合いの結果、発注者側の意見を尊重することとして、消防及び三春町の委員の票に重み付けとして 2 票扱いとして再度投票を行い、5 票を獲得した受付番号⑩の提案を最優秀賞に選定した。また、次点が 1 票で 2 者（受付番号②と⑬）あったため、この 2 者を対象に再度 1 票で投票し、3 票を獲得した受付番号⑬を優秀賞に選定した。

2. 審査結果

最優秀提案者（受付番号⑩）：(株)永山建築設計事務所

優秀提案者（受付番号⑬）：日新設計+ノルムナルオフィス設計共同体

3. 審査委員会の構成

審査委員長：浦部 智義氏（日本大学工学部：教授）

審査委員：櫻井 一弥氏（東北学院大学工学部：教授）

審査委員：鳴原 健二氏（三春町：総務課長）

審査委員：立花 清氏（郡山地方法域消防組合：消防本部参事兼総務課長）

審査委員：鈴木 宏幸氏（福島県建築設計協同組合：代表理事）

4. 講評

今回のプロポーザルは、間口の狭く、がけ下端からの 20m の水平距離を必要とする敷地かつ、消防署という機能を重視する建築であることは前提となるため、比較的自由度が少ない条件の様に思われたが、建築への取り組みも含め歴史と伝統がある三春町につくる建築への解釈や業務への取組体制なども含めて、多様で魅力的な提案が数多く見られ、第一次審査・第二次審査とも意見交換と投票を繰り返しながらの長時間の議論・審査となった。

（受付番号⑩：最優秀提案者）

第一次審査の段階から、緊急車両等の出動動線や訓練スペースにも配慮された配置計画、また、無駄のないシンプルな平面構成も相俟って、高い評価を得た案である。ヒアリングで

は、通り沿いにある仮眠室の遮音や室外機も含めた空調方式などが質疑となつたが、遮音スクリーンや内窓の設置等や場合によっては 2 階平面の部分的な変更などにより対応するといった応答が得られた。機能を重視する今回の建築プロポーザルとしては、コンパクトでインシシャル・ラインニングのコストコントロールがしやすい内容であること、使い勝手や管理の視点から、最も優れていると判断され最優秀賞となつた。

建築用途から無理しないことを最優先にした提案が高く評価された一方、三春町ゆかりの櫓をイメージしたデザイン、また、提案とは別紙で求められた取組体制や設計チームの特徴に鑑みると、印象が弱い部分もあり、実施段階で提案からの更なる発展が求められるプロポーザルの最優秀提案者として、上述した優れた機能面に加えて多角的に建築の価値を高める様な設計力を今後十分に發揮して頂くことを期待したい。

(受付番号⑬：優秀提案者)

この提案は、車庫の配置とそれによる緊急車両等の帰還動線や訓練スペースとの関係性にも配慮した前後ともに開くオーバースライダー、また、3枚のフラットな大屋根が目立つ外観が特徴である。また、独自の聞き取り調査から静穏な仮眠室の重要性にも着目し、より一層の配慮を考えるなど、前者の様な提案性がありながらも動線等の機能面も担保した優れた提案で、第一次審査の段階から高い評価を得ていた。

その中で、ヒアリング時にも話題となった三春町の景観とその素材を含む 3 枚の大屋根との関係性・親和性のほか、ZEB 等の環境性能に関する具体性、地盤へのかなりの配慮した基礎のあり方などの提案や、求められている項目についての回答が十分に伝わり難い部分も見受けられた。プロポーザルらしい可能性を感じる優れた提案であったが、惜しくも優秀賞となつた。

(受付番号②：ヒアリング対象者)

景観と訓練にも対応した、切妻とフラットルーフを組み合わせた屋根が特徴的で、素材やその色彩と相俟って、積極的に建築のデザインの可能性を発信しながら、無理が少ない動線やモジュール化はじめコストコントロールへの提案もあり、魅力的な提案であった。

ヒアリングでは、地域への開放性にも鑑みた多目的室と執務室の位置の入れ替えのほか、豊かな空間をつくりだす仕掛けの結果として、敷地に対して角度の付いた配置による車両動線、吹き抜けややや出隅入隅が多い形態などが機能面やコストに関連した質疑となり、実施段階で対応する回答は得られたが、その項目の数がやや目立つ結果となつた。

その挑戦性と提案とは別紙で求められた取組体制や設計チームの充実度から見ると、質の高い建築の具現化も期待でき、優秀賞と遜色のない優れた提案であった。

(受付番号④：ヒアリング対象者)

崖下からの離隔のラインを活かした「くの字」の配置によって実現した細長い大屋根が、

山並みとシンクロし景観にも馴染む特徴を持つ。また、その配置が包み込むような防災広場を生みだしつつ、車庫の前後ともに開くオーバースライダーによる崖下の訓練スペースとの連続性を担保するなど、特徴的でありながら、建築の色彩も相俟って地に足が付いた魅力的な印象を受ける提案であった。

一方で、第一次審査及びヒアリングを通して、屋根や建築の大きさから来るコスト増、地形を含む訓練スペースのあり方やそこまではしご車等の出入り、吹き抜けや RC 壁蓄熱と壁の木質化による環境性能への考え方などが質疑となり、実施段階で対応する回答は得られたが、特に、前 2 項目への不安が残念ながら十分に拭えなかった印象が残った。

(受付番号⑦：ヒアリング対象者)

緊急車両等の出動動線や訓練スペースにも配慮された配置計画、また、シンプルな平面構成も相俟って、評価を得ていた案で、地中熱利用や CLT の活用などの提案性も見られた。一方で、開放的な執務環境を具現化するための事務室の大きな吹き抜けやトップライトに関して、南面のガラス張りのファサードと相俟った空調の負荷やメンテナンスの懸念、また、庇に近い 2 階部分を中心を使用し耐候性を意識するという記述があるとは言え外壁木材の経年対応等について、ヒアリング時の質疑で一定の回答は得られたが、コストにも直結する問題でもあり不安が拭えない印象が残る結果となった。

その他、第一次審査において、全 14 者について、投票前に審査委員間で意見交換を行った際の上記 5 者以外に関する要約を述べると、受付番号①は、トラス架構やアーチ・片持ちの意欲的なデザインの一方、そのコストや仮眠室から出動準備室や車庫への動線、また崖下からの離隔の問題。同③は、景観への配慮や内部の動線処理等は非常に巧みだが、車庫が道路側前面に出て諸機能が奥にあることによる、車庫前のスペースの狭さ、来庁舎の駐車場と訓練場との入り口の混在の懸念。同⑤は、平屋の案で屋根も特徴的であるが、それによるコスト増、また、来庁者駐車場からの歩行と緊急車両動線の交錯、仮眠室の落ち着き、事務室と車庫の関係、訓練スペースの形状や崖下からの離隔の問題。同⑥は、木造・木の表しの景観への配慮や大きな訓練スペースが特徴的な提案だが、敷地の分断、木造車庫等の構造、木表しや木格子とガラス張りの部分の温熱やメンテナンスの懸念。同⑧は、雁行配置で出来る空間利用も含めて特徴的な提案で内部の動線処理も巧みだが、長い壁面、複雑な屋根形状や雨仕舞などコスト面や、訓練スペースへの動線やその地形の懸念。同⑨は、平屋の木造・木の表しで湾曲する屋根形状も意欲的な案だが、車庫前スペースの狭さ、北隣接の官舎と駐車場の関係、待機ホールの日常と緊急時の使い分け、木外壁のメンテナンスの課題。同⑪は、コンパクトな案であるが、本計画にはやや過剰に思える防災公園や石垣などのコスト増への懸念、一部仮眠室から食堂を横切る動線等に見られる様なプランの問題。同⑫は、景観を時系列に融合し、近代建築と蔵・古民家の様な歴史ある形状を組合した複雑な造形で、それが多様な使われ方にもなる特徴的な提案であるが、雨仕舞や本計画の規模感に鑑みた複雑

さから来るコスト増への課題や車庫前スペースの狭さ懸念。同⑭は、木造ラーメンが特徴的な提案であるが、事務室が 2 階にあることによる、UD も含む来客対応やセキュリティや出動時の動線の懸念、1 階の無窓の仮眠室やエントランスとの関係などのプラン上の問題が主に話題となった。

おわりに

最後に、本プロポーザルに積極的にご参加下さり、様々な魅力的な提案をされた全 14 者の応募者の皆様には、審査委員会一同、深く敬意と感謝を申し上げます。また、今後、最優秀提案者によって行われる施主側との綿密な打ち合わせ等により、提案内容がさらにプラスアップされ、質の高い建築が実現されることを期待します。

(審査委員長 浦部 智義)